

天覧山周辺の自然に親しめるふる里散歩へ、
どうぞふるってご参加ください。

ふる里散歩

10/20
日

「里山バザール」

「ほとけどうの里」で今年も「里山バザール」を開催します。詳細は別記を参照してください。

時 間/午前11時～午後3時

★雨天中止



11/23
土

天覧山谷津の里づくりプロジェクト「里山復活祭」昼食付き

天覧山下の“ほとけの里”で谷津田の保全作業を行います。谷津田で出来たごはんを昼食！

集 合/市民会館北側中央公園トイレ付近
午前9時

要申込/042-973-2125 はんのう市民環境
会議事務局（市役所環境緑水課）

持ち物/軍手・タオル・飲み物

参加費/無料 ★雨天順延

*主催：はんのう市民環境会議
協力：てんたの会



12/8
日

「里山のリース作りエコツアー」

大好評企画「里山のリース作り」里山の恵みを分けてもらって、世界にたった一つのリースを作ります。

午前中は山歩き、昼食後リースを作りますが、雨天の場合は午前中よりリース作りとなります。

集 合/郷土館玄関前 午前9時半

要申込/先着15名 てんたの会 (042-974-1691浅野)

持ち物/飲み物・お弁当・山道を歩ける服装

参加費/1500円

1/1
水

「初日に祈る山歩き」の巻

自然の持つ力の底知れなさを痛感する近年です。新しい年の平安を願い山を歩きましょう。

集 合/能仁寺山門前 午前6時15分

持ち物/飲み物・山道を歩ける服装

申し込み/不要

参加費/無料 ★雨天中止

【*を除く各回共通 共催/はんのう景観トラスト、
(公財) 埼玉県生態系保護協会飯能名栗支部】



イタドリハムシ

やませみ

66

発行日/2013年10月1日

編集・発行/NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会
事務局/TEL042-974-1691(浅野正敏)

埼玉県飯能市柳町18-17

●機関誌「やませみ」は「銀河堂」「ロビンズドフェロー」「丹三郎」にあります。

●「やませみ」へのご意見をお寄せください。
投稿もお待ちしています。

URL=<http://www.tenranzan.com/>
E-mail=tenta@tenranzan.com

会員募集中!!

1995年、巨大住宅団地開発の計画がきっかけで発足した「NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会」は、この地の自然をいつまでもという思いで、様々な活動を続けています。どうぞあなたも会員になって活動を支えてください。

*年会費 ●正会員……普通会員 2,000円

特別会員 10,000円

●賛助会員………1口 10,000円

*会費・カンパ送り先…郵便振替口座「NPO法人 天覧山・多峯主山の自然を守る会」00580-9-16342

デザイン・イラスト：石田真由海



NPO法人天覧山・多峯主山の自然を守る会 会報

No.66

2013.10.1

やませみ



- 今後の里山保全への展望
- 福島と子どもの保養
- ヤマネ生息調査
中間報告
- 東谷津レポート
- 第2回里山バザール
- 天覧山・多峯主山の
四季
- ふる里散歩



今後の里山保全への展望

てんたの会代表 浅野正敏



前号に「沼田眞賞受賞式での記念講演」における発表内容を掲載しましたが、その中の「今後の里山保全への展望」について内容を踏込んで記します。

当会としては、天覧山・多峯主山周辺の保全・再生を進めていくに当たり、基本方針を①奥武蔵地域本来の自然生態系を保全・再生し、理想的な自然公園を創出する②市民・行政・企業が協働して、自然と人間の共生を目指す体験の場として「新しい里山」を創出する、としました。

概観的イメージは、天覧山・多峯主山一帯に広がる落葉樹林、松林、照葉樹林、針葉樹林など多様な森の存在を尊重し、これらを背景にした谷津（湿地、水辺、農地など）を含めた「明るい里山」の再生（誤解のないように付け加えますが「全てを明るく」という意味ではなく、多様な森には暗部を好む植生も含まれます）を考えています。

方針の具体化に向けては、以前作成した自然環境調査データや現在行っているモニタリング調査の結果を基に、場所毎の特徴を活かせるゾーニング（区分け）を行い、多様な自然生態系を観察できる場、ハイキングなどが楽しめる場、市民の憩える場、子どもたちの環境学習の場、農林業体験できる場を設定して行くのが良いと思っています。

以上は、てんたの会が考えている保全・再生案ですが、それには土地所有者である西武鉄道を始めとして、現在ここに関わっている団体・個人（飯能市、はんのう市民環境会議、自治会、市民等）が共有認識を持つことが前提となります。

これまでは関係者による「天覧山・多峯主山保全活用のための懇話会」が定期的開催され、整備に対する合意を踏っていますが、今後は更に協議を深め、保全方針の共有と具体化を働きかけて行きたいと思っています。

今から四十年ほど前の里山には、様々な生きものが住み着いていました。実家のある天覧山の近くでは、すぐ裏手から丘陵が広がり、谷戸には水田が続く里山が広がっていました。

春、麦の穂先が伸び始める頃、夕暮れの空にはヤマコウモリが頭上を飛び、裏山の林からは「キヨキヨキヨキヨ、キヨキヨキヨキヨ」とヨタカの鳴き声が響いてきます。やがて、その声は暗くなるにつれ林を出て民家近くへと移動し、大きなツバメのような影はふわふわと地面に降りたり、空中を飛び交いながら虫を捕らえては食べています。

夏、梅雨空の谷戸にはカワセミの仲間、アカシヨウビンの「キヨロロ・・、キヨロロ・・」という鳴き声が響き、水田の畦道では「キヨン、キヨン、キヨ、キヨ、キヨ、キヨ」とヒクイナの赤褐色の体が小走りに横切ります。水田の中を覗いて

みると、トウキョウダルマガエルやドジョウが人影に驚いて逃げ惑う姿が目に残ります。

ある日、夕立が過ぎ去った後、強風によって枝葉の散乱する庭先に一羽の鳥が訪れました。その鳥は、くちばしが太く、尾羽の短い見かけたことのない小鳥でした。全体の印象

から何となく巢立ちビナと感じましたが、その頃はまともな図鑑など持っておらず、名前は判りませんでした。

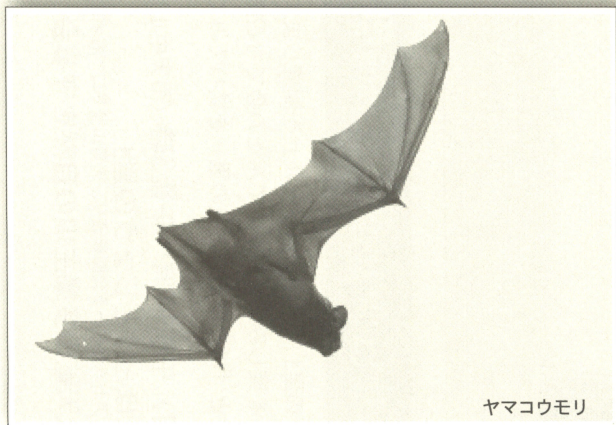
昔見たその鳥の名前が判明したのは十数年ほど前で、今では高知県など国内に数カ所しか繁殖地が知られていないヤイロチョウだったことが判りました。ヤイロチョウは最近では数年前にも奥多摩で鳴き声が聞かれたことがあるそうです。

一方、アカシヨウビンは、数年前、東谷津でヤマアカガエルやトウキョウサンショウウオのための湿地の復元を行った後に、池の周辺や西側の天覧山の谷戸で鳴き声と姿が観察されました。

私たちが、ほんの少し昔ながらの里山の環境づくりを手助けすることで、かつての生きものたちも戻ってくるのが期待されています。

市川 和男

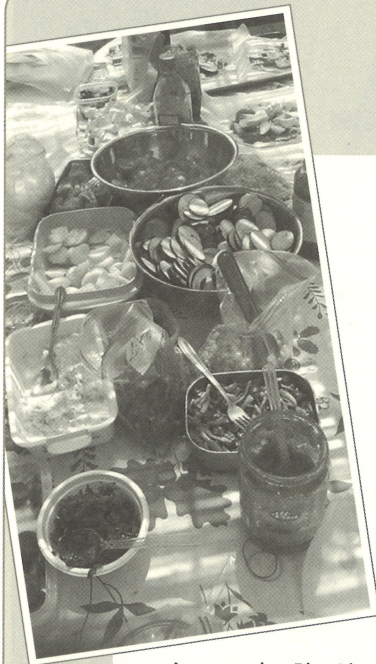
（日本生態系協会 会員）



ヤマコウモリ

カブトムシ

オオイトトンボ



放射線量の高い場所で生活している福島の子ども達に少しでも線量の低い所で保養してもらおうと、保養キャンプを始めて3回目になる。最初は秩父、昨年から飯能の山荘をお借りして実施している。昨年私達の会が毎日新聞に紹介されたことが縁で「てんたの会」との繋がりができた。東谷津での「石窯ピザ体験」は暑さにも関わらず子ども達に大評判で、皆真剣にピザの生地にトッピングを



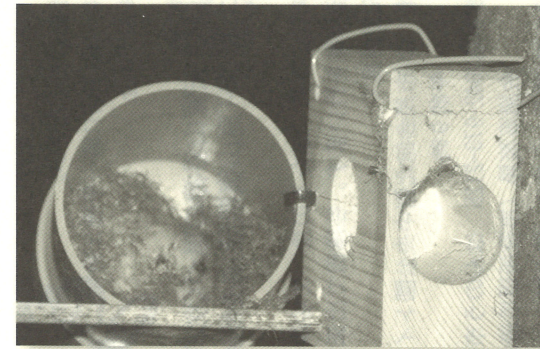
福島と子どもの保養

NPO法人福島子ども保養プロジェクト@練馬 竹内尚代

した。谷津ではピザだけでなく、珍しいミツバチの巣を見て、甘い蜂蜜を頂いた。田圃には色々な生き物がいた。目が入った栃の実が人気。しっかりと手に握って福島に帰っていった。皆さんのご協力に感謝。

福島では除染が進まない所があり、行政が遅いので、近所の仲間と家の庭を除草したという人がいた。山を除草できないのだから、雨が降ればまた地表は放射能に覆われてしまう。福島から来たママ達は口をそろえて言う。「普通の生活がしたいの」。迎えるバスから降りたとともに、山荘の広い庭でトンボや虫取りをする子ども達。普段は口やかましく外に出るなと言って外遊びさせられないから、こうして庭で虫取りをしたり、川遊びをすることが、おとも子ども達も楽しい、ホッとすると、ママ達の癒しの時間も用意し、アロマセラピー等のボランティアも沢山入って、ストレス解消をした。

キャンプが終わって、先日被災地を回った。3・11を忘れないために毎年友人達10名くらいで被災地を回ることになっている。南三陸・女川・石巻の被災地は瓦礫が少し減って、草が被害の跡を覆っているが、進んでいない。福島にも行った。南相馬の小高地区は



名栗げんきプラザの巣箱に入っていたヤマネ

前号でお知らせしたヤマネ調査は、比較的順調に進んでいます。6月9日（日）に開催した筑波大学・杉山昌典氏の講演では、ヤマネは標高100m以下から富士山の山頂まで確認されていること、別荘などを恐れず入り込み猫等により殺されていること、さらにはイタリア等でのヤマネシチューのレシピまで幅広いお話が好評でした。

生息情報収集については、市の協力で、市報に掲載し、山間部の全世帯に情報提供依頼のチラシが配布できたほか、読売新聞等にも掲載されました。多くの市民がヤマネに関心を寄せていただき、当会にいただいたヤマネの生息情報は20件になりました。

（右図）古くは70年前父親から聞いたという話から、昨晚見かけたという情報までありました。証拠の写真や動画の提供まであり、最近の確実と思われる情報から、現在、入間川水系では原市場周辺、高麗川水系では吾野周辺までヤマネが生息していることが確実と思われます。

調査にご協力ください！

ヤマネ生息調査 中間報告



また、14の団体・個人の協力により、ヤマネ調査用巣箱を西部山間地区から東は天覧山、加治丘陵まで132個設置しました。そのうちの名栗げんきプラザでは、設置早々の6月にはヤマネが入りましたが、他はまだ利用が確認されていません。12月に越冬利用があるかどうかを見て今年の調査は締めとなります。もっと市街地近くで確認されることを期待しています。

（ヤマネ調査隊 大石 章）



3・11のまま、津波に流された車や倉庫が横倒しになっている。浪江町の立ち入り禁止のゲートの向こうは線量計を持たなければ普通の町のように見える。原発事故によって打ち捨てられた町や村が福島にある。内陸の緑豊かな飯館村は人が住んでいないので、樹木がジャングルのようになったまま。車のなかでも線量計の数値がどんどん上がっていくのが分かる。見捨てられた町や村、線量がそこより低いから住んでいいが、子どもに甲状腺がんがどんどん見つかるっている福島。氷山の一角だ。

保養は今後何十年も必要とされる事業になるだろう。せめてウクライナのように年に2回は長期の保養ができるような政府がほしい。



第2回



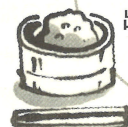
「ほとけじょうの里」で第2回里山バザール開催します!!

今年も「ほとけじょうの里」で「里山バザール」を開催します。秋の一日、石窯の周りで開く“小さな森の市”を楽しみませんか！てんたの会でも石窯を使ったパンやピザを出店します。ぜひぶらりと「ほとけじょうの里」を訪ねてみてください！

日時■10/20（日）午前11時～午後3時（雨天中止）

会場■天覧山下「ほとけじょうの里」
（東谷津トラスト地・アトム像のある公園を通り、天覧山登り口で右手に折れて直進100m）

主催■NPO法人天覧山多峯主山の自然を守る会（てんたの会）



●出店者を大募集!!!

食べものや雑貨、野菜等々、何でもOK。
あなたの小さなお店を開きませんか。
出店料は無料。詳細や出店希望の方は
042-977-1890(担当：早瀬)まで
ご連絡ください。

東谷津レポート

（会員 山梨光明/写真）

シロジュニ ホシテントウ	ハグロトンボ	ハグルマ トモエ
アカガエルと オタマ	ノカンゾウ	

